

# The TENDAI journal

令和5(2023)年9月1日 金曜日  
(毎月1日発行) 1部 50円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 小林 祖承  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp



広報天台

## 比叡山宗教サミット36周年 「世界平和祈りの集い」



各教宗派代表登壇のもと、「平和の鐘」が響くなか参加者全員が平和を祈った

比叡山宗教サミット36周年「世界平和祈りの集い」が8月4日、比叡山で開催された。6団体の宗教代表者が「平和への道―未来へ向けて―」と題して決意を語り、出席した約450名の宗教者らが人類の安寧と世界平和への祈りを捧げた。式典の様子は動画配信サイトを通じて全世界に中継された。(3・4・5面に関連記事)

熱中症や異常気象対策とし、延暦寺会館で「平和の式典」を、世界宗教者平和の祈り記念碑前広場で「平和の祈り」を実施。通常開催では初の二部制を採った。

式典は、延暦寺会館で13時からこれまでの歴史を振り返るオープニング映像で開式。阿部昌宏天台宗宗務総長の挨拶に続いて、「平和への道―未来へ向けて―」が始まった。

登壇したのは、教派神道連合会から理事長の宗野史生神道扶桑教管長、全日本仏教会から副会長の五條良知金峯山修験本宗管長、日本キリスト教連合会は委員長の水屋潔日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事長、神社本庁は田中恆清総長、新日本宗教団体連合会は常務理事の宮本恵司妙智會教団法嗣、そして日本ムスリム協会より佐藤裕一副会長の6人が順にそれぞれの教義に則り祈りを捧げ、宗教間対話と平和への取り組みの展望について語られた。

続いて、パロップ・タイアリー世界仏教徒連盟会長、ミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソットローマ教皇庁諸宗教対話省長官からの平和メッセージが披露された。

また参加者一同から賛同を得て、記念品相当額が公益財団法人日本ユニセフ協会に寄託され、早水研専務理事に目録が手渡された。

続いて、屋外の世界宗教者平和の祈り記念碑前広場に会場を移し、15時20分に再開。次代を担う宗教者を代表して新日本宗教団体連合会から宮本泰克さん、教派神道連合会から北川真喜子さんの2名が登壇し、初回に発信された『比叡山メッセージ』を朗読。先人らが込めた平和への想いや比叡山宗教サミットの精神を確認した。

そして15時半には大樹孝啓天台座主殿下ら9人の教宗派代表者が登壇し、文殊楼横にある「世界平和の鐘」の音に合わせ、会場全員で一分間の黙祷を捧げた。

挨拶された大樹座主殿下は「我欲の暴走、憎悪と暴力の連鎖を断ち切り、協働と調和の力で慈悲の心を未来へ向けて育まねばならない」と力強く呼びかけられた。

最後は水尾寂芳延暦寺執行が閉式の辞を述べ、平和への祈りと行動を続けることを誓い合いながら閉会した。

米国ハワイ州における山火事被害により、亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

天台宗  
一隅を照らす運動総本部

### 極微

当たり前の話だが、風が吹くということは、空気が移動することである。太陽によって暖められた空気は、膨らんで上昇し、空の上の方では冷やされて縮んだ空気は重たくなって下降する。すると上昇して移動した空気や下降した空気のあとに、周りの別の空気が流れ込む。それが風である▼実際にはもっと複雑な要因で様々な「風」が起きるのだが、基本的にはそういうことである。風は目に見えないが、木々のざわめきや青々とした稲が揺れ動く様が風の存在を知らしめてくれる。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」と古今和歌集にある。秋が来たのは、目にはつきりとは見えないが、風の音にハッと気づかされた、という内容だが、風の持つやさしさが偲ばれる和歌である▼とはいえ、こんな心地よい風ばかりではない。危険な風もある。台風襲来時の暴風などは歓迎できない筆頭である。毎年の襲来という宿命から逃れるすべもないだけに、なんとか被害の少ないことを祈るだけである▼しかし、台風に限らずここ数年来、狭い範囲で集中的に風雨による大被害が起きている。線状降水帯という耳新しい言葉も登場した。風も雨もなくしては困るものだが、今日の被害の増大化は、その自然の営みを崩しつつある人間が甘受すべき災いとなっているようである。